

災害時個別支援計画と避難訓練の実践ガイド

「形式的な訓練」から「命を守る実動」へ

カテゴリG：具体的支援プログラム | 対象：支援員 / サービス管理

NotebookLM

災害対応は「起きてから考える」では遅すぎる

標準的な訓練



実際の災害



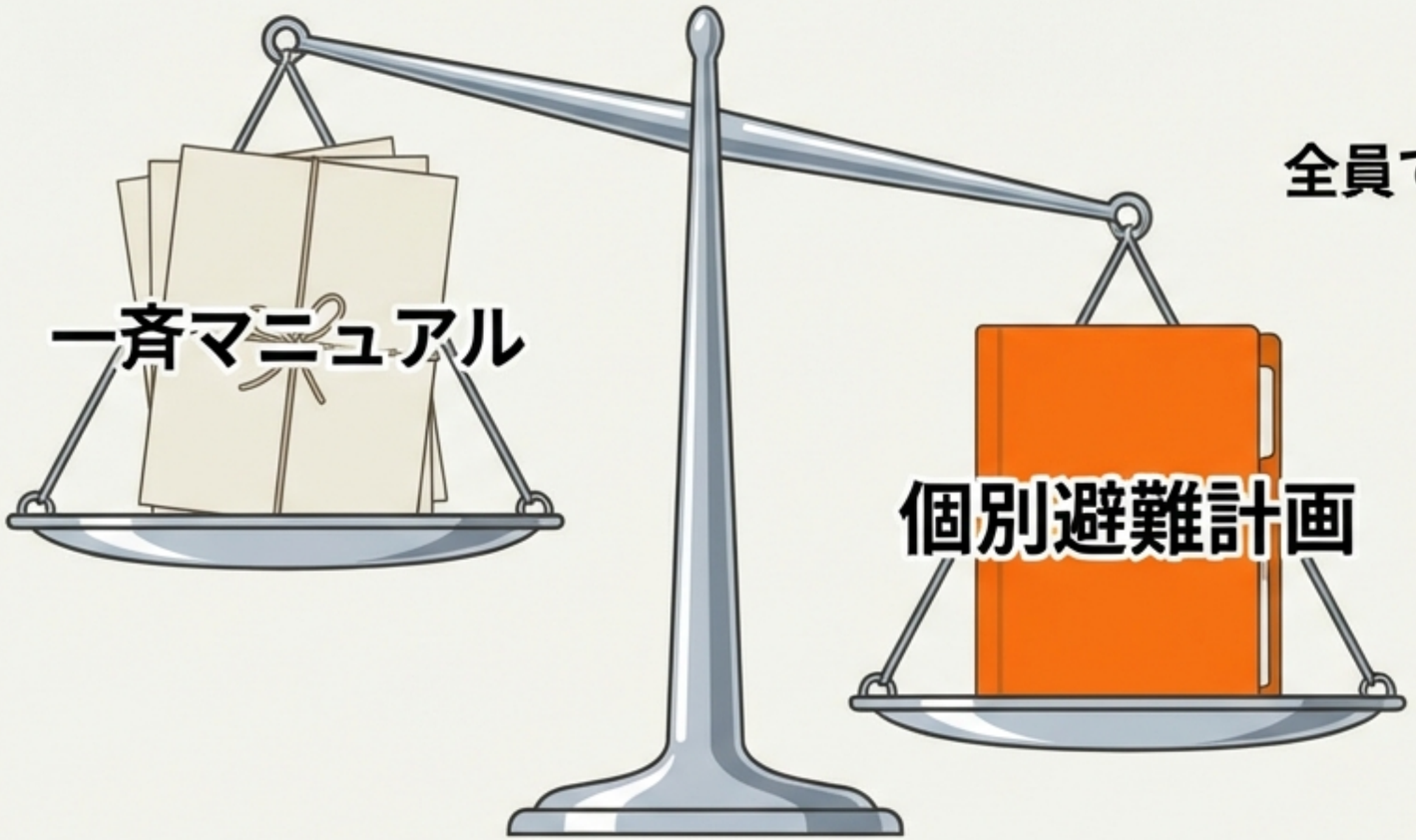
B型事業所の特有リスク

- 体調・移動の制限
- 感覚過敏によるパニック
- コミュニケーションの困難

形式的な訓練だけでは、実際の混乱に対応できない

NotebookLM

安全は「一斉訓練」より「個別想定」で守られる



全員で同じ動き ＜ 一人ひとりに合う動き

理由：

- 移動速度の差
- 服薬管理の必要性
- 指示理解力の違い

> 「訓練で見つかった課題を次回計画へ反映し続ける運用が必要」

NotebookLM

現場導入の5ステップ・フロー



平時準備から訓練運用までを体系化

NotebookLM

Step 1: 「平時はできても緊急時は難しい」を見極める

Aさん（車椅子利用）

⚠ 移動能力	階段利用不可 (Cannot use stairs)
医療的配慮	常備薬の持ち出し必須 (Meds required)
コミュニケーション	騒音下での指示理解が困難 (Hard to hear in noise)
連絡先	最新情報の確認済

重点確認事項

- ☑ 階段移動は可能か？
- ☑ パニック時の対応は？
- ☑ 家族の連絡先は最新か？

NotebookLM

Step 2: 代替案を含む「動ける計画」を作る



個別避難計画書

避難対象者	Aさん
避難場所	車椅子利用所
避難経路	
介助者	主担当：田中 代替担当：佐藤
持ち出し物品	☑薬 ☑イヤーマフ ☑イヤーマフ ☐病毒 ☑飲料水 ☐振り可能 ☐送結物 ☐… ☐フラック ☐_____

避難経路：主経路と第2経路を設定

介助者：主担当不在時の「代替担当」を明記

持ち出し物品：薬・イヤーマフ等

主経路が使えない場合や、主担当不在時の「代替案」を必ず入れる

NotebookLM

Step 3: 「想定外」を減らす変則訓練の実施



日中想定

通常の活動時間帯。



悪天候想定

足元が悪い状態での移動。



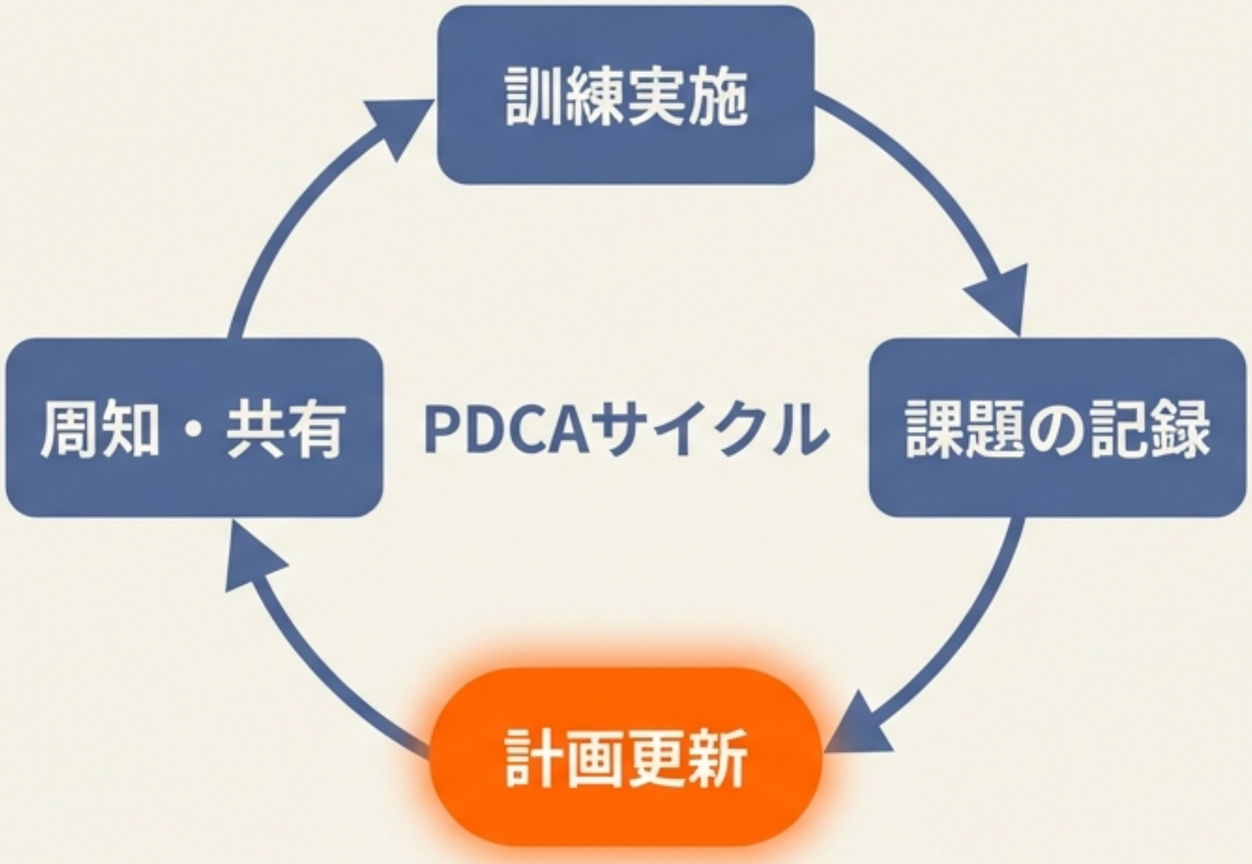
不規則な時間

昼休みや送迎時、スタッフ手薄時。

固定パターンだけでは実効性が上がらない

NotebookLM

Step 4: 訓練後の「計画更新」こそが本番

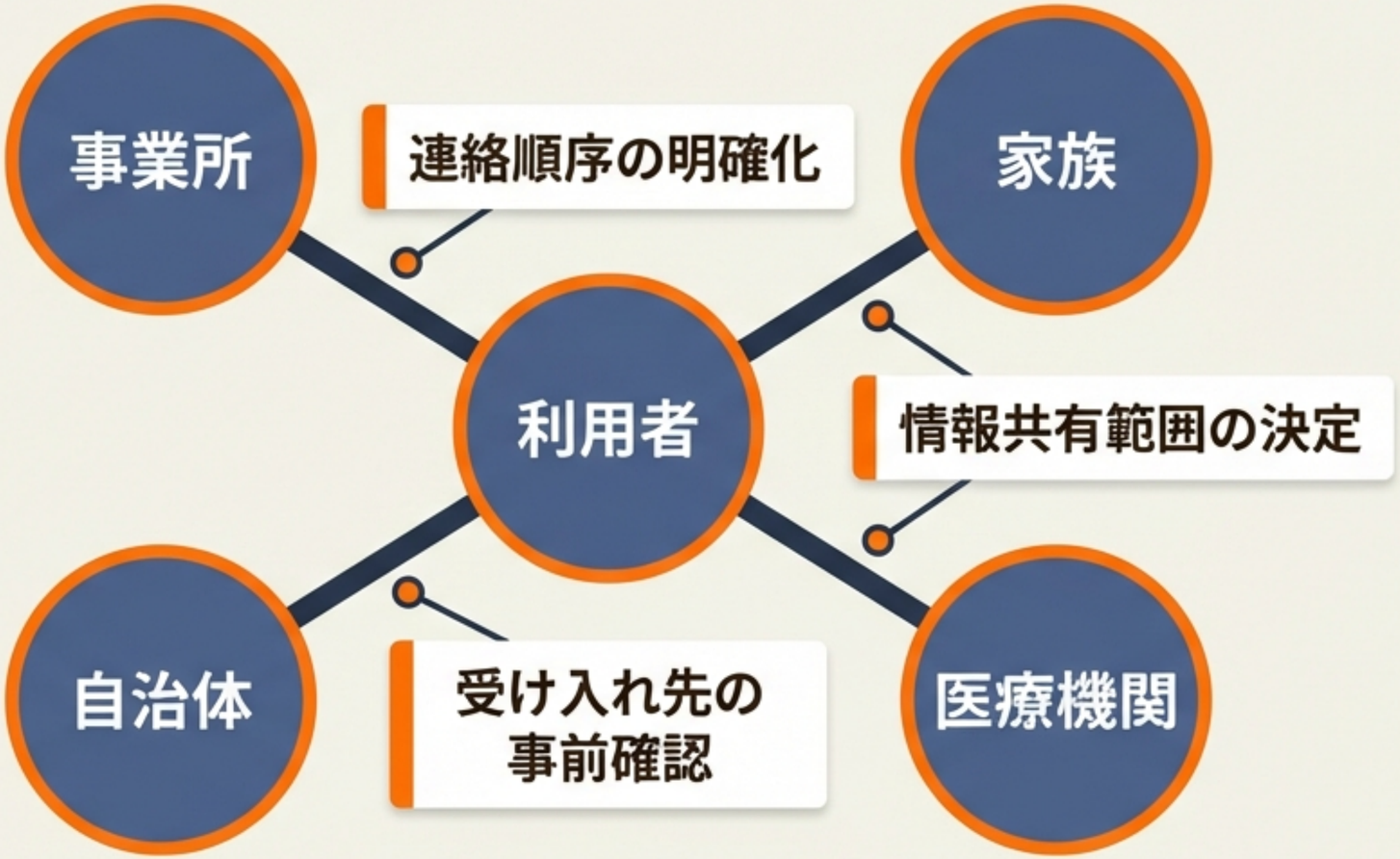


ルール：計画が古いままだと本番で機能しない

アクション：訓練で見つかった課題を必ず記録に残す

NotebookLM

Step 5: 家族・自治体・医療との連携ネットワーク



定期的な連携確認で、実災害時の混乱を最小化する

NotebookLM

事例：V事業所の導入ビフォー・アフター

Before（導入前）

訓練は実施しているが
個別対応が曖昧

役割分担の混乱

導入後

After（導入後）

個別避難シート作成・年3回の実地訓練

Result: 避難時間短縮
Result: 家族安心感が向上

NotebookLM

陥りやすい3つの失敗パターン



一斉訓練のみで終わる

個別配慮が抜け落ちる



訓練結果を更新しない

計画が形骸化する



連携先不明確

連絡順を明文化していない

NotebookLM

品質チェックリスト

- [ ] 個別避難計画が全対象者に作成されている
- [ ] 年複数回の訓練を実施している
- [ ] 訓練記録と改善点が残っている
- [ ] 家族・関係機関との連携手順が明文化されている
- [ ] 計画更新日が管理されている

NotebookLM

運用の「見える化」KPI・評価指標



目標 100%



目標 100%



目標 90%以上

* 改善反映率＝訓練課題が計画に反映された割合

NotebookLM

法令根拠とよくある質問

法令根拠

- 障害者総合支援法
- 指定障害福祉サービス運営基準
- BCP・避難計画関連通知

FAQ

Q: 更新頻度は？
A: 毎年必要

Q: BCPとの違いは？
A: BCPは事業全体、個別計画は利用者単位

NotebookLM



災害対応の成否は、日常の準備で決まる

個別避難計画と訓練を継続的に更新し、
利用者さんの命と安心を守る体制を整えましょう。

今すぐ、計画の見直しを

NotebookLM